

6	<p>とお みち ちじん はなし おも ほう よ よこ 通り道で知人と 話 をしようと思 っ てその方へ寄 っ たとき、横 か て ひら ひと みみき はなし て あいて れんらく ら手の平で「この人、耳聞こえない、話 するな」と手を相手に連絡 されて、会話が出来なかつた。</p>	<p>けいもう つうかん 啓蒙を痛感した。</p>	<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
7	<p>むすこ しょうがっこう どうきゅうせい こうこうせい まんび 息子の小学校の同級生が高校生になり、万引きをした。 てんいん こうこうめい たんにん ほんにん なまえ か かみ 店員に高校名と担任と本人の名前を書かされたが、その紙に むすこ なまえ こうこう か 息子の名前と高校を書いた。</p>		<p>ちてき かぞく 知的(家族)</p>
8	<p>こども つ ある 子供を連れて歩いていると、怖い!気持ちが悪い!と面と向かっ い ひと い はな い ひと て言う人も。言わなくてもわざと離れて行く人もいる。「おはよう」と い ばか み あと か 言うと「しゃべらないでバカに見えるから」。「あなたの後にもものを買おうと きも わる さいご か い ごみ はなし 気持ちが悪い!あなたは最後に買ってよね!」と言われた。ゴミの話 き い まえ を聞いてもらおうと「あの一」と言っただけで、「お前なんかだまっとなれ い 」と言われた。</p>	<p>ひなんじょ ちてきしょうがいしゃ つく 避難所を知的障害者だけの作っ しい。</p>	<p>ちてき 知的 はったつ こうじのう 発達・高次脳 じへいしょう かぞく 自閉症(家族)</p>
9	<p>ようちえん かめ こうら あかいろ ぬ かめ 幼稚園で亀の甲羅を赤色に塗ったら、「そんな亀はいない」とみ ひなん きゃんぷふあいやー え ほのお きいろ ぬ んなに非難された。キャンプファイヤーの絵で、炎を黄色に塗ると せんせい よ だ まっち ほのお いろ き きいろ こた 先生から呼び出され、マッチの炎の色を聞かれ「黄色」と答えた おや れんらく ら、こっそり親に連絡された。</p>	<p>しきかくせいじょう しきかくたすうは い 色覚正常(色覚多数派)と言われている ひと こていかんねん 人には固定観念がある。</p>	<p>しかく 視覚 しきかくしょうがい 色覚障害</p>

10	<p>がくせいじだい あるばいと きやでいー ぼく ぼーる あお 学 生 時 代 の アル バ イ ト で 「 キ ャ デ ィ ー さ ん 、 僕 の ボ ー ル は ア オ の 7 や 」 と い わ れ 、 見 て み る と ブ ル ー の 青 で は な い 。 「 こ の ボ ー ル は 青 で は あ り ま せ ん 」 と い う と 、 「 ア オ の 7 や な い か 」 と い わ れ た 。</p>	<p>しきかくしょうがい りかい 色 覚 障 害 を 理 解 し て ほ し い 。</p>	<p>しかく 視 覚 しきかくしょうがい 色 覚 障 害</p>
11	<p>しきかくしょうがいしゃ しんたいしょうがいしゃ かんが た 色 覚 障 害 者 も 身 体 障 害 者 と し て 考 え て ほ し い 。 他 の しょうがいしゃ はし よ か くるま うんてん 障 害 者 か ら は 、 「 あ ん た は 走 れ る 。 読 み 書 き が で き 車 も 運 転 で き る 。 私 ら の 障 害 に 比 べ た ら 軽 い も の 。 と て も 障 害 と は 思 え な い 」 と 思 わ れ て い る 。</p>		<p>しかく 視 覚 しきかくしょうがい 色 覚 障 害</p>
12	<p>おっと き ひと おっと しょうぼ じょうし しょうがいしゃ 夫 が 聞 こ え る 人 で 夫 の 職 場 の 上 司 か ら 「 障 害 者 と けっこん はんたい おっと い 結 婚 す る の は 反 対 」 と 夫 が 言 わ れ た 。</p>	<p>おっと けっこんご じょうし いえ つ 夫 は 結 婚 後 も 上 司 の 家 へ 連 れ て く れ しょうかい がいしょく とも すこ 紹 介 し て く れ た り 外 食 を 共 に し て 少 し りかい 理 解 し て も ら え た 。</p>	<p>ちょうかく へいこうきのう 聴 覚 ・ 平 衡 機 能</p>
13	<p>しりょくしょうがい いま ふつう せつ きんじょ ひと こえ 視 力 障 害 で 、 今 ま で 普 通 に 接 し て い た 近 所 の 人 か ら も 声 を か け て 貰 え な い こ と が あ り 、 情 け な い 思 い を し て い る 。</p>		<p>しかく しえんしゃ 視 覚 (支 援 者)</p>
14	<p>しかくしょうがい ちい とき いままで なんと し かお 視 覚 障 害 で 、 小 さ い 時 か ら 今 迄 、 何 度 と な く 知 ら ん 顔 を し て る と か 、 つ ん と し て る と か 、 に ら ん で る と か 、 何 百 回 と 言 わ れ た 。</p>		<p>しかく 視 覚 ちてき 知 的 じへいしょう 自 閉 症</p>
15	<p>ひと あ る 人 か ら 「 あ ん た 、 自 分 で 着 替 え ら れ る の ? 」 と 言 わ れ た 。 大 変 く や おも 悔 し い 思 い を し た 。</p>		<p>したい 肢 体</p>
16	<p>さべつようご しご こうれいしゃ きょういく ひつよう 差 別 用 語 は 死 語 に な っ て い な い 。 高 齢 者 に は 教 育 が 必 要 。</p>		<p>したい 肢 体</p>

17	<p>なんちょう じょせい おおぜい なか い きず 難聴の女性が、大勢の中で「どつんぽ」と言われ、傷ついて きたく はつおん 帰宅した。発音があきらかに60歳台の女性に対して話し かけては困らせている人がいる。</p>	<p>おとな きょういく ひつようせい つうかん 大人にこそ教育の必要性を痛感して いる。</p>	<p>したい 肢体</p>
18	<p>ちょうない あつ しゃきょう ぼきんとう たい きょうりよく 町内で集めている社協の募金等に対して「協力して もかたわの子供たちがバスで遊びに行っている」と話している人たち は協力していない。</p>		<p>ちてき しえんしゃ 知的(支援者)</p>
19	<p>むすこ さんぽ つ けんじょうしゃ こども よ 息子を散歩に連れていくと、健全者の子供たちが寄ってきて、 きも わる わるくち い おも 気持ちが悪いとか、いろんな悪口を言われていやな思いをした。</p>		<p>のうせい まひ かぞく 脳性麻痺(家族)</p>
20	<p>ひとりぐ じょせい む いえ いし めいわくこうい 一人暮らしの女性が、向かいの家に石をほるなどの迷惑行為 をした。本人から「警察を呼びなさい」と言われて、警察を呼ん だ。入院と聞き、退院したら自宅に帰るのが一番かと思っ ていたが、もどってくることなく更地になり売りに出された。</p>	<p>ぎょうせい ほんにん か せいしんしょうがい 行政が本人に代わって精神障害の せつめい きんじょ ひと ふあん ふまん き 説明をするとか近所の人への不安・不満を聞 くという姿勢があればと思う。</p>	<p>せいしん きんりん 精神(近隣)</p>
21	<p>ばす ていりゅうじょ もの ひろ とき じょせい すかーと バスの停留所で、物を拾おうとした時、女性にスカートの なか い さいばん 中をのぞいたと言われ裁判になった。</p>		<p>ちてき しえんしゃ 知的(支援者)</p>
22	<p>ほんにん あ かん さが わか がくせい じてん 本人が空き缶を探してさわっていると若い学生たちが自転 しゃ と ほんにん かけたい うつ わら ひそひそはなし 車を止め、本人を囲んでケータイで写し笑ってヒソヒソ話 しながら本人に嫌な思いをさせた。 ほんにん はなし き はいはい からへんじ 本人の話をはなから聞こうとせず、ハイハイとカラ返事をしてい</p>		<p>ちてき かぞく 知的(家族)</p>

	た。		
23	ある団体の夏休みの行事に近くの子どもたちが参加するのに誘われなかった。		ちてき かぞく 知的(家族)
24	私が障害についてどうしても答えざるを得ないのに、「障害のことを言っはいかん！」と怒り、「どうしてなのか？」と聞いても、差別受けるからとか、それは言っても前世の因縁うんぬんとか、私に納得できないことばかりの答えしか返ってこず、「そのような弱虫を叩きのばしてやる！」とボロクソに言われた。		したい 肢体 あすべるがーしょうこうぐん アスペルガー症候群
25	健全者に性について話すと、「やることはやってるんや」と言われた。		せいしん 精神
26	両親が聴覚障害なので娘が縁遠いかなと思う。		ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能 しえんしゃ (支援者)
27	町内の役員担当をぬかされた。井戸端会議に入れない。	つうやく 通訳がつくことを説明。サークル員が増え るとよい。	しえんしゃ (支援者)
28	会社や友達に例えば「それ知っているかな？知らないかな？ほっとけ」と言い方に差別を感じた。		ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能 しえんしゃ (支援者)

29	<p>ちい 小さいときいじめられた。</p> <p>だんち ひと かいか おこ 団地の人（階下）にうるさいと怒られた。</p> <p>き どな 「あなたは聞こえないからわからない」といきなり怒鳴られた。</p> <p>ちょうないかい やくいん せいそうとうばん ごみとうばん たいおう 町内会の役員、清掃当番、ゴミ当番についても対応が ばらばら バラバラ。はずされるとか、はずしてくれているのか。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p> <p>しえんしゃ (支援者)</p>
30	<p>ねんばい ひと さべつ たい むりかい むち りかい 年配の人ほど差別に対する無理解や無知がたくさんある。理解が ないというより知らない、意識していないというのが実情。</p> <p>えいが じょうえいかい れんらく さい ひと えいが 映画の上映会で連絡した際、「おしの人たちのことの映画で すね。きょうりよく えんりよ はつげん じょうえいかい 協力は遠慮します。」という発言があり、上映会に きょうりよく は協力もらえなかった。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p> <p>しえんしゃ (支援者)</p>
31	<p>ちょうかくしょうがいしゃふうふ りんか きょうかい だ 聴覚障害者夫婦が、隣家から境界をはみ出して ぷらんたー ー お ちょくせつてき さべつてき プランターなどを置いたり、直接的に「あほ」「つんぼ」などの差別的 ことば い いや う ちょうかくしょうがいしゃ な言葉を言われたりと嫌がらせを受けている。「聴覚障害者と はなし へんけん ねづよ は話ができない。つきあいもできない」という偏見が根強くある。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p> <p>しえんしゃ (支援者)</p>
32	<p>しょうあしゃや(+)しゃ かぞく けんじょうしゃ おーぶん ろうあ者や(+)者の家族に健全者がおられると、オープンにし ない。こじんじょうほうほご い こんかい しんさい とき ちいき 個人情報保護と言われるが、今回の震災などの時、地域 たす あ ひつよう しんらい での助け合いが必要なのに、信頼されていないような気がする。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p> <p>おんせい げんご 音声・言語・そしゃく</p> <p>しえんしゃ (支援者)</p>

33	<p>すーぱーに入ろうとしたところ、くるまいす わたし まえ じてんしゃ の方とぶつかりそうになった。「あぶないなー、ぶつかったら私がおこ られるんやでー」とおばさんがぷんぷん</p>	<p>やさしい言葉かけがほしい。</p>	<p>したい 肢体</p>
34	<p>じゅうぶん つた じょうほうぶそく しゃ たい 十分に伝えてないため、情報不足のろうあ者に対してま わりの人々が時々うそな話をしていた。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
35	<p>せいしん め み りかい こと 「精神しょうがい」は目に見えずなかなか理解してもらえない事に こま 困っている。特に自治会に出られず不自由な思いをしている。 しょうがいしゃてちょう だ 障害者手帳が出しにくい。</p>	<p>しょうがい ひょうき しょう 「障害」という表記を「障がい」とい ひょうき う表記にする。</p>	<p>せいしん 精神</p>
36	<p>ちょうかくしょうがいしゃ よ よ おも ひと りょうて 聴覚障害者を呼ぶときに、呼びたいと思った人が両手に にもつ も あし け よ 荷物を持ってはいたが、足で蹴って呼びかけた。</p>	<p>しょうがっこう きょういく なか 小学校からの教育の中で、きちんと しょうがい りかい 障害の理解ができるようにしていく。</p>	<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能 (支援者)</p>
37	<p>みち まよ かた ちか かた こえ ひつようい 道に迷っている方がおり、近くの方が声をかけたが、必要以 じょう おお こえ みみもと みち おし 上に大きな声で耳元で道を教えていた。</p>	<p>しょうがい たい ただ ちしき も 障害に対する正しい知識を持つために けいはつ 啓発する。</p>	<p>しかく 視覚</p>
38	<p>せいしんしょうがいしゃ かた ぼらんていあ だいがく ぼしゅう 精神障害者の方のボランティアを大学で募集すると、 たいはん がくせい だいじょうぶ き 大半の学生が「大丈夫ですか?」と聞く。</p>	<p>しょうがい たい ただ ちしき も 障害に対する正しい知識を持つために けいはつ いま しゃかい いしき ちょうさ 啓発する。今の社会の意識を調査する。</p>	<p>せいしん 精神</p>
39	<p>びょうき ちょうし わる いえ おお こえ な 病気でしんどくて調子が悪いとき、家で大きい声で泣いてい ることがあった。その際に、近所の人々が怪訝そうに見たり、ヒソヒソ ばなし いごち わる 話をしている、居心地が悪かった。</p>		<p>せいしん せいしんしゃ 精神 (支援者)</p>
40	<p>だいがく あんけーと りょう じぎょうしょ ある大学からのアンケートに「あなたの利用している事業所が</p>		<p>せいしん せいしんしゃ 精神 (支援者)</p>

	<p>びーがたじぎょうしょ^し B 型事業所だと知っていますか？」というものがあつた。利用して いる以上^{いじょう}、知らないわけはなく、「知らないとでも思ったの？」^{おも}といや な気持ち^{きもち}になつた。</p>		
41	<p>おや^{おや} そうしき^{そうしき} かぞく^{かぞく} しゅつせき^{しゅつせき} い^い かな^{かな} 親の葬式にも家族から出席すると言われて悲しかった。</p>		<p>したい 肢体</p>
42	<p>ぐるーぷほーむりようしゃ^{ぐるーぷほーむりようしゃ} じてんしゃ^{じてんしゃ} くるま^{くるま} かる^{かる} せつしよくじこ^{せつしよくじこ} お グループホーム利用者が、自転車で車に軽い接触事故を起 こした。グループホーム職員^{ぐるーぷほーむしよくいん} が謝罪に伺^{しやざい} いたいと連絡^{れんらく} をした ら、「障^{しょう} 害^{がい} 者に家を知られたら、あとで何をされるかわからんから、 こ^こ 来^来なくていい^い」と言われた。</p>		<p>はつたつ^{はつたつ} こうじのう^{こうじのう} 発達・高次脳</p>
43	<p>せんとう^{せんとう} いれずみ^{いれずみ} ひと^{ひと} め^め あ^あ 銭湯でイレズミをした人と目が合ったら、めちゃくちゃどなられた り、脱衣籠^{だついかご} をけられたりしてこわかつた。</p>	<p>いれずみ^{いれずみ} き^き しぜん^{しぜん} せつ^{せつ} イレズミを気にしないでごく自然に接するよ うにとアドバイスする。</p>	<p>ちてき 知的</p>
44	<p>せつこついん^{せつこついん} まちあいしつ^{まちあいしつ} あいて^{あいて} ひと^{ひと} じょうだん^{じょうだん} ことば^{ことば} 接骨院の待合室で相手の人から冗談めいた言葉でから かわれた。自分では冗談^{じぶん} で済まない言葉^{じょうだん} なので興奮^す してしまい、 いんない^{いんない} きぶつ^{きぶつ} こわ^{こわ} ことば^{ことば} ほ^ほ 院内の器物を壊してしまった。からかうような言葉はいわないで欲 しい。</p>		<p>ちてき 知的</p>
45	<p>こうじのうきのうしょうがい^{こうじのうきのうしょうがい} せいねん^{せいねん} だい^{だい} まち^{まち} ある^{ある} 高次脳機能障害の青年（20代）が町を歩いていると、 ほこうしょうがい^{ほこうしょうがい} ある^{ある} かた^{かた} み^み ひるま^{ひるま} の^の よ^よ 歩行障害の歩き方を見て、「昼間から飲んでるか」と酔っぱらい あつか^{あつか} ある^{ある} すがた^{すがた} じろじろみ^{じろじろみ} ちかよ^{ちかよ} さ^さ 扱^扱 いされたり、歩く姿をジロジロ見られて、近寄らないようにと避 けられたことが度々^{たびたび} あつた。</p>		<p>したい 肢体 はつたつ^{はつたつ} こうじのう^{こうじのう} 発達・高次脳 しえんしゃ^{しえんしゃ} (支援者)</p>

46	<p>こいびと りょうしん ひと ふつう 恋人の両親がその人が普通じゃない、あなたはおかしい、 せつしょく ゆる い じっさい あ はなし 接触することも許さないなど言い、実際に会って話をするまで にんげん み こうさい もうはんたい は人間として見てもらえず、交際していることに猛反対された。</p>	<p>さべつ ひと ところ あきらかな差別であるが、人の心であるた はな あ かいけつ ふたり ささ め話し合いによる解決がいい。2人を支える そうだん きかん ひつよう ための相談できる機関が必要。</p>	<p>したい 肢体</p>
47	<p>こいびと しんけん しょうらい かんが はな あ こいびと 恋人と真剣に将来を考えて話し合っていたが、恋人の かぞく いせい おや もうはんたい はなし ふつう 家族（とくに異性の親）が猛反対し、話によると「普通ではな い」などといったようである。</p>	<p>さべつ ひと ところ あきらかな差別であるが、人の心であるた はな あ かいけつ にん ささ め話し合いによる解決がいい。2人を支える そうだん きかん ひつよう ための相談できる機関が必要。</p>	<p>したい 肢体</p>
48	<p>だんじょ こうさい おもてむ りゆう 男女の交際についてはとくに表向きはほかの理由でも じっしつてき しょうがい りゆう ことわ うけつ きよひ 実質的には障害を理由に断ったり、受け付けを拒否される ばあい おお 場合が多い。</p>	<p>しょうがい ひと かか きかい 障害のある人と関わる機会がないことで いめーじせんこう へんけん ごらくしせつ イメージ先行からくる偏見、娯楽施設の あくせすせいやく さまざま げんいん アクセス制約など様々な原因があるので、 はな あ かいけつ ぶつりてき 話し合いによる解決だけでなく、物理的な ばりあフリーに関しては罰金などを設けても いいのでは。</p>	<p>したい 肢体</p>
49	<p>まつばづえ ある とお ひと てらみ ひ 松葉杖で歩いていたら通りすがりの人がテラ見をし、そのあと引 かえ ぎょうし じぶん ふかい なに もんく き返してきて凝視された。自分は不快だったので「何か文句で も？」と言ったら何も言わず立ち去っていった。</p>	<p>へんけん ぎょうせい しょうがい 偏見をなくすため行政からも障害 りかい かつどう 理解がすすむような活動をするべき。</p>	<p>したい 肢体</p>
50	<p>りょうしん わか せいかつ かね 両親に若いころ、「あなたには（生活するには）金がかかっ ている」といわれてきた。</p>	<p>りょうしん じぶん おも つた 両親に自分の思いを伝えていくための さぽーと サポートがほしかった。</p>	<p>したい 肢体</p>

51	<p>きんじょ とらぶる つうやくしゃ よ ほんにん 近所とのトラブルで通訳者を呼びたいが、「本人じゃないので うそ はなし になつてしまうので聞かない、本人が言ったという証拠 がないからと、聞かないと耳をふさぎ、筆談すると証拠になるし、僕 が書いたという証が残ると困るので書かない。」と手をかくしてしま われた。何かがあるといやがらせのTELが来たり、主人の会社まで いやがらせのTELがあった。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
52	<p>きんじょ とらぶる わたし ちよくせつはなし せんたー 近所とのトラブルで私に直接話せず、〇〇センターまで こうぎ でんわ 抗議のTELがかかってくる人がいた。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
53	<p>みみ き べる おと ごみしゅうしゅうしゃ ひと き き 耳が聞こえないので、ベルの音、ゴミ収集車の人に来てても聞 こえないのに、ベルがなったらゴミを出してほしいといじわるされて悲し かった。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
54	<p>でんわ で れんらく きんじょ TELしたのに出でこないので連絡しなかった。という近所さんも いた。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
55	<p>そうしき あと ち きょうだい じょうほうぶそく りゆう 葬式の後、血のつながりのない兄弟が、情報不足の理由 で、ウソが平気で言われたことがあった。</p>		<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>
56	<p>きんじょ ひとびと つめ かお だ ひと 近所の人々は、あいさつしないまま冷たい顔を出す人がいる。</p>	<p>しょうがい かんけい ごじょ 障害のあるない関係なく互助のある にんげんかんけい きょういく がっこう おし 人間関係の教育を学校で教える</p>	<p>ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能</p>

57	「あなたは本当に精神病ですか？とてもそうは見えないよ」と 言われたが、「じゃあ、精神病患者はどんな姿と 思っているの だろう？」		
58	自転車で後ろから来て暴言を言われた。		せいしん 精神
59	脳性マヒの人が歩いていると、子どもたちがその人の真似を しながら追いかけていく。		
60	言語障害のある人が電話対応したら、話の分かる人にか わってと言われた。		
61	一般公道での目撃。白杖障害者の進行を防ぎ、 数人が笑っていた。		しかく 視覚
62	障害者は酒を飲むなどいわれた。		
63	親・兄弟に障害者は自立できないと言われた。		
64	障害者はおとなしくしとけと言われた。		
65	内部障害（オストメイト）で自分が打ち明けないと理解してもら えない。外見的には健全者に見られている。		
66	言葉が通じにくい人と直接しゃべらず、横にいる介助者と ばかり喋る。		

67	せいしんしょうがいしゃ い ふつう おも さべつ 精神障害者と言われただけで、普通に思われず差別がある。 なに こわ とくべつ ひと おも 何が怖い特別な人だと思われる。		せいしん 精神
68	そうしき かぞく しゅっせき い かな お葬式のときに家族から出席するなど言われた。悲しかった。		
69	つえ ひと おお つえ りょこうい 杖をつきはじめる人が多いが、「杖ついてまで旅行行きたくな い」といった言葉を聞くことが多い。杖をついて悪いといつも思う。		
70	せいしん ひと こわ いめーじ 精神の人は怖いというイメージがある。		せいしん 精神
71	しかくしょうがいしゃ まん いち とき しつれい たいおう 視覚障害者は万が一の時、失礼な対応があっではいけないので、という理由で遠慮してほしいと言われた。		しかく 視覚
72	しょうがいしゃ けっこん い しょうがい 障害者だから結婚できなくてかわいそうと言われる。障害 があるから結婚できないと思いついでいる人が多い。		
73	くやくしょ い とき ひとり き い 区役所に行った時「一人で来たのか」と言われた。		
74	せいしんしょうがいしゃ くすり の だいじょうぶ い 精神障害者が「薬を飲んでいるから大丈夫」と言わざる え を得ない。		
75	かたみ きちがいは片身がせまい。		
76	せいしんしょうがいしゃほんにん しょうがい こと たいへん 精神障害者本人が障害をもった事を大変はずかし がって外にでにくい状況。自分で自分を責めて心を狭くして いる。		せいしん 精神

77	<p>むすこ せいしんしょうがいしゃ みうち かぞく おや あま 息子が精神障害者。身内の家族は「親が甘やかしたからだ。 しょうらいみうち こうれい せわ みまも 将来身内も高齢になるので、世話をするとか、見守ってあげると いうことはできない。」と あたま い おや たにん せわ 頭から言われている。親か他人が世話をし せいかつ ほうほう て生活させる方法しかない。</p>		せいしん 精神
78	<p>せいしんしょうがいしゃ せきになん きび してき きんじょ ひと おや むすこ 精神障害者はなりたくてなったものではない。息子から親に 責任があると厳しく指摘される。近所の人にも親として息子の こと聞かれると 一番いやな思い。</p>		せいしん 精神
79	<p>ほんにん かのじょ でき なかよ ぼらんていあ き 本人に彼女が出来、仲良くしているのに、ボランティアに来てい る人に「どこでひろって来た」と言われた。</p>	いぬ こ ねこや犬の子でない。	ちてき かぞく 知的 (家族)
80	<p>はくじょう も ある あいて いそ じぶん 白杖を持って歩いていたら、相手が急いでいて自分からぶ つかって来たのに、『こんなところトロトロ歩いている方が悪いね ん!』と ぎやくぎれ はくじょう ま し かお 逆ギレ、白杖を曲げておいて知らん顔。</p>		したい 肢体 ほんにん かぞく (本人と家族)
81	<p>つごう みみ つごう め い 「都合のいい耳やなあ!」「都合のいい目やなあ!」と言われる。 なんちょうしゃ しゅうはすう ことば き き 難聴者にはある周波数の言葉は聞こえるけど、聞こえない しゅうはすう 周波数もある。 き へんじ でき たか 聞こえていないから返事が出来ないと、『お高くとまっている』とか なにさま へんじ あいさつ へいぜん 『何様のつもり』『返事をしない/挨拶をしない』とか平然と わるくち い 悪口を言う。</p>		しかく 視覚 ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能 ほんにん かぞく (本人と家族)

	<p>しやししょう しゃ ひと み ばしょ はんいとう ちが 視野障がい者は、人によって見えている場所・範囲等が違う。</p> <p>かお ほうこう む じっさい にんしき 顔がその方向に向いても、実際にはそれを認識していなかったり</p> <p>することも多々ある。それを『こっちを向いたのに無視をする』など</p> <p>むしんけい ひと 無神経にいう人がいる。</p>		
82	<p>むすこ くるまいす の まえ よこぎ じょせい ふ かえ 息子を車イスに乗せていたところ、前を横切った女性が振り返</p> <p>り、じっと息子を見据えるので、「失礼ですが、この子の顔に何かつ</p> <p>いていますか」と尋ねたら、「いやー」と言って小走りに去って行った。</p>		<p>したい 肢体</p> <p>ちてき かぞく 知的 (家族)</p>
83	<p>しょうがいしゃ たしゆ しょうがい とくせい し さべつてきはつげん 障害者が他種の障害の特性を知らず、差別的発言を</p> <p>する。全盲の方が「知的障害者は家の中から出すな」「知的</p> <p>の人は私らを低くみている。バスにのっていると、いきなり後か</p> <p>ら抱きついてくる。失礼やし、腹立つわ」と言った。</p>	<p>おきな とき しえんがっこう ちゅうがっこう 幼い時から支援学校、中学校から</p> <p>の交流教育などが必要。</p>	<p>ちてき かぞく 知的 (家族)</p>
84	<p>どうきよ ねんきん あず さぎょうじよ 同居しているおばさんが、年金を預かっている。作業所での</p> <p>工賃が下がったので、年金からおこづかいを出してほしいとたのんだ</p> <p>が、とりあってくれない。</p>	<p>ほんにん きょうだい じょうきょう まず、本人の兄弟さんから、状況の</p> <p>説明をおばさんにしてもらい、理解をもとめる。</p>	<p>ちてき そうだんいん 知的 (相談員)</p>
85	<p>いっばん ひと おな じゅんばん なら とき しょうがいしゃ 一般の人と同じように順番に並んでいる時、「障害者</p> <p>やろ、先にどうぞ」と言われた。</p>	<p>おや しゃかい るーる み きかい 親としては、社会のルールを身につける機会</p> <p>とと思っているのに、残念。</p>	<p>ちてき そうだんいん 知的 (相談員)</p>

86	<p>じへいしょう むすこ ちゅうねん だんせい て むごん て 自閉症の息子が、中年の男性に手をはたかれ、無言で手 のけられた。その後、^{ご こわ}恐くてその場所を避けて^{まわ みち}回り道をして^{かえ}帰って くる。</p>	<p>せんたー せきにんしゃ たんとうすたっふ ようす センターの責任者、担当スタッフが様子 ^みを見て、^{ほんにん}本人のことを^{せつめい}説明して^{くだ}下さると、^{なん}何 とかなるかもしれない。</p>	<p>ちてき かぞく 知的 (家族)</p>
87	<p>みちばた もの お しゅうい かた ねが いや 道端に物を落としてしまい、周囲の方にお問い合わせすると、嫌そ ^{むし}うに無視されたことがある。</p>		<p>したい 肢体</p>
88	<p>き 聞きとりにくいので、そんなことがよくあるのでよく^い言われる</p>		<p>せいしん 精神</p>
89	<p>さんすう た ざん べんきょう ごうけい あか 算数の足し算の勉強で、合計が3になるのは赤に、4にな ^{あお}るのは青に、^{みどり}5になるのは^ぬ緑に塗る。色弱者は算数嫌いに ^{さんすうふてきごう}より算数不適合になり^{りけい}理系にすすめない。</p>	<p>しきかくほんにん じかく まわ しゃかい 色覚は本人に自覚させ、廻り、社会は ^{りかい}しっかり^{しめ}理解を示す。</p>	<p>しかく 視覚 しきかくしょうがい 色覚障害</p>
90	<p>しょうがっこう ねんせい とき かていきょうし じ へた 小学校6年生の時の家庭教師に字が下手なことをさんざん ^い言われ、^{みぎて}右手の^{しょうがい}障害について^い言うと、「そんなこともわからないのか！」 「そんなこともできないのか！」と^{どな}怒鳴られたり、^{はなし}話をはぐらかされた。 「そんなことはどうでもいい。とにかく^{ぼく}僕が^い言うとおりに^か書けるようにな ^{ぎゃくたい}れ！」と虐待された。</p>		<p>したい 肢体 はったつ こうじのう 発達・高次脳 あすべるがーしょうこうぐん アスペルガー症候群</p>
91	<p>じぶん しょうがいしゃ ほんとう い 自分は障害者ではなかったが、本当のことを言ったところ、 ^{ぎゃくさべつ}「逆差別」と^せ攻められて、^{せいしんしょうがい}精神障害になった。</p>		<p>せいしん 精神</p>
92	<p>どうきょ おぼふうふ そうだんしゃ ねんきん ふ こ 同居している伯母夫婦が相談者の年金が振り込まれているは ^{つうちょう}み ずの通帳を見せてくれない。</p>	<p>はは おとうと そうだん 母や弟にもういちど相談するか ^{けーすわーかー}ケースワーカーに^{かほう}家訪してもらおう。</p>	<p>ちてき 知的</p>

93	どうきょ ちちおや まんえんか かえ 同居の父親に100万円貸したが、なかなか返してくれない。	ちいきせいかつしえんせんたー そうだん 地域生活支援センターにも相談する。	ちてき 知的
94	ひとり ある とき なにげ ふ て とお ひと 一人で歩いている時、何気なく振った手が通りがかりの人の ひたい あ けいさつ れんらく 額に当たった。すぐ警察に連絡された。		ちてき 知的
95	せんきょ い とき わがこ つ そ きにゆうだい 選挙に行った時、いつも我子に付き添っているので、記入台の そばで、かかり しょうがい つた くだ い そばで、係に「障害があります」と伝えて下さいと言われた。	かかり ひと たいおう 係の人が対応してくれた。	ちてき 知的 (家族)
96	かいわ とちゅう 会話を途中でさえぎる。		
97	よなか ひとり 夜中に一人ぼっちでさびしくて死にたくなる。		
98	でんしゃ なか わか きれい おんな ひと となり すわ ひざ 電車の中で若くて綺麗な女の人が隣に座っていて膝に て お けいさつ 手を置いてしまい警察につれていかれた。		
99	びょうき どうしょ この病気になった当初は40ぐらいで、もう死んでいるだろうと思 ったが、なん い の ねん おや し ったが、何とか生き延びた、しかしこれから20年は親はたぶん死ぬ。 なん じりつ 何とか自立しなくては。		
100	わたし げんき はし しんしん ばらんす ふあんてい 私はとても元気なので、走ったら心身のバランスの不安定な ひと あ ひと ころ 人に当たり、その人が転んでしまいました。		
101	もとどうき やきゅう じこ ぜんしん けんめい い 元同期が野球の事故で全身まひとなったが懸命に生きている しんぶんきじ み ゆうき という新聞記事を見て勇気づけられている。		
102	わたし しゃかい じゅうぶん おんけい う おも いるりょうひ 私は社会から十分に恩恵を受けていると思う。医療費、		

	ちかてつ としょかん しょうがいねんきん ていどまんぞく 地下鉄、図書館はある。障害年金はもらえて、ある程度満足 している。これからは社会に還元していかなければと思っている。		
103	はいぼく ばね しょうしゃまん わた あ じん この敗北をバネにいずれは、商社マンと渡り合えるような人 ぶつ 物になりたいと思っている。		
104	ちゅうこうじだい なかま はめ おも ものがたり がんくつ 中高時代の仲間にはめられたと思っている。物語の「巖窟 おう 王」のような。		
105	やくしょ まどぐち はい じ か き だい たか 役所の窓口で「ハイ、字は書けますか？」と聞かれる。台が高い て ふじゆう おも わ から分らない。		
106	とうひょうじょう うけつけ だ なに い みみ 投票場の受付にはがきを出したら何か言われたので「耳が き 聞こえませんが。。。」と言ったら、次はなにやら大きな声で 「……………」 しゅうい め わたし そそ は 周囲の目が私に注がれた。ずいぶん恥ずか しい思いをしてくやしかった。		ちょうかく へいこうきのう 聴覚・平衡機能
107	ちか とうひょうじょ もうどうけんどうはん ふくすう かかりいん 近くの投票所で、盲導犬同伴を複数の係員から ことわ 断られた。		しかく 視覚
108	せんきょ い たの むすこ い まえ えら ひと 選挙に行くことを楽しみにしていた息子は、行く前に選ぶ人の なまえ なんと れんしゅう こうけんにいん い 名前を何度も練習していたが、後見人をつけたことで行けなく なって、書いて練習しているがつまらなそうな様子である。		ちてき しえんしゃ 知的（支援者）